

各議員からの チア・につぼん マガジン 推薦のことば

超党派フリースクール等議員
連盟 前座長
前文部科学大臣

馳 浩

「一人の喜びをみんなで共有できる教育行政」を私は目指しています。「学校制度の充実と再生」「いじめ／不登校対策・多様な教育の学習環境の整備」は私のライフワー



クの一つです。これらの取り組みは、将来の日本の成長に大きく寄与すると確信しています。

チア・につぼんは、ホームスクーリングの全国的なサポート団体として17年間、希望と志に満ちて積極的に歩み、40年の歴史を持つ海外のホームスクーリング団体らと強い絆を築きつつ、全国の家族への支援活動を重ねてきました。

2014年6月に超党派議員連が発足し、20回以上の審議を尽くしてきた多様な教育をめぐる「教育機会確保法案」では、チア・につぼんは緻密な取材を続け、教育現

場と関係議員・行政の双方の思いを活かした、実践的で興味深い提案を、情熱的に続けています。

めぐる永田町を舞台にした1年半のドキュメンタリー特集からは、子どもたち一人ひとりへのサポートを目指す超党派の関係議員、文科省、そして当事者の今と課題、心意気が見えてきます。

衆参両院の各先生方に、今後、この法案について自由にご検討いただく一つの情報として、参考にしていただければと願っています。

チア・につぼんが今後も子どもたち一人ひとりのために、一層、気合を入れて励み続けていくことを、期待しています。



超党派フリースクール等議員
連盟会長

元文部科学大臣
元内閣官房長官

河村建夫

安倍首相は施政方針演説で、個性を大切にする教育再生として「子どもたち一人ひとりの個性を大切に

境を整えます」と話されました。一昨年の所信表明演説では「多様な学びを国として支援していきます」と安倍首相が話され、法案の準備が加速した経緯もあります。

教育に、今、多様かつ重要なニーズがあります。その声に耳を傾け、応えていくべき時です。学習障害、フリースクール、ホームスクーリング…。賛成、反対、いろいろな意見もあつて当然です。忌憚なく議論し、最善の法案を忍耐強く作っていくればと思つて私どもは21回あまりの議連を重ねてきました。感謝なことに、先の国会にて、「教育機会確保法」として可決成立を賜りました。

この過程において、チア・につぼんは、広い国際的な絆と卓越した企画・取材力をベースに、積極的な提案を私たちに寄せてくれました。17年に亘るチア・につぼんの献身的な活動は時代を先取りし、家族・教育の在り方へのチャレンジに満ちたもので、大変、参考になりました。私からは「17年間、これほどの活

動、よく頑張つてくれましたね」とお伝えした次第です。

「教育機会確保法」は、3年後に改正される予定になっています。教育環境の整備を進めるために、様々な角度からの視点・情報を取材し、ドキュメンタリーとしてまとめた、チア・につぼんマガジン44号『特集 続・多様な教育をめぐる教育機会確保法案——その後の240日間の舞台裏』を推薦します。

超党派フリースクール等議員連盟 座長代理
元文部科学副大臣

笠 浩史

「子どもたちの未来のために行動し、明日への責任を果たす!」「人づくりなくして国づくりなし」という政策信念のもと、「教育機会確保法」の制定に、皆さんと取り組んで



においても、具体的に実践的な提案、情報提供に積極的に貢献されました。私自身、励まされ、また、参考にさせていただきました。

今回、可決いただきました同法は、3年後には改正もなされる予定です。そうした中で「チア・につぼんマガジン43号」

まいりました。「チア・につぼん」の皆さんとも、同法が練り上げられていく2年あまりのプロセスにおいて、今日まで、共に尽力してきました。ホームスクーリング支援団体として、国内では最大規模のスケールで、17年あまり積極的、献身的な活動を続けている「チア・につぼん」を心から推薦します。

の「法案特集」に続き、44号での続編において、立法チームや法案の深層が描かれ、「最善の教育環境」を目指しての、さらなる提案も含め、その道が深く取材、レポートされたことは大いなる喜びです。今後とも、チア・につぼんの活躍、一人ひとりを大切にしていける国際国家としての国づくりへの貢献を、心から祈り、お祝い申し上げます。

その理念として、子どもたち一人ひとりに最善の教育環境を整えたいとの思いは、私自身の思いと共鳴します。国内外での実践の歴史、卓越したネットワーキング、情報収集力をもとに、同法案の立法活動に



超党派フリースクール等議員
連盟座長
元文部科学副大臣
丹羽秀樹

子どもたち一人ひとりを活かすための環境整備を進める教育機会確保法が、成立となりました。心から御礼申し上げます。

チャ・につぼんの皆さんとは、法案審議のプロセスにおいて、気兼ねなく話し合い、より良い法案を目指して、積極的に論じてまいりました。私自身は、馳先生から座長職を引き継ぐ形で、加わらせていただ

きました。

法律が制定された今、子どもたちそれぞれの状況に応じながら、しっかりと支援できる体制が整えられるよう、政府はじめ関係者に働きかけてまいります。

未来を担う子どもたちのために、私自身も、一層、心を尽くしていこうと思えます。引き続きご支援・お力添えを賜りますよう、よろしくお願ひします。

超党派フリースクール等議員
連盟幹事
元文部科学大臣政務官
浮島とも子

教育は日本の柱。社会のための教育ではなく、教育のための社会づくりを日々全力で。そのような思いで、希望あふれる未来を目指し、歩ませていただいている日々です。多様な教育機会を整備していく「教

育機会確保法」は、今日の教育・家族・社会のニーズに応える画期的で重要な法律です。私もこの2年あまり、最優先で立法チームの会議に参加し、取り組ませていただきました。

その日々の中で、チャ・につぼんの皆さんと出会い、ホームスクーリングをめぐる世界の法制度の歴史や、家族・教育の回復を目指して、日本で17年、積極的に、明るく、真剣に学習に取り組んでおられる姿を知ることができました。

この2年の前半の240日間をまとめたチャ・につぼんマガジン43号「多様な教育法案 特集号」に続き、チャ・につぼんマガジン44

号「特集 続・多様な教育をめぐる教育機会確保法案——その後の240日間の舞台裏」が刊行されましたことは、大変、うれしいことです。

同法案をめぐる480日間の記録、各先生方との対談を始め、新たな教育法案の深層を描くと共に、「教育」の側面から、歴史の尊い断面が切り取られているのではと思います。

私は、文化・芸術の力による「躍動・感動・ニッポン」も目指しています。チャ・につぼんから刊行された三浦綾子さんの絵本『したきりすずめのクリスマス』は、とても素敵な作品でした。こうした文化・芸術面からも、心を養い育てる姿勢も素晴らしいと思います。

ボランティア活動、英語教育、スポーツも活発に展開され、教育に重きをおいて真面目に取り組んでおられる姿も知り、今後、ますます期待しています。

